はるか
悠
多気町郷土資料館だより
2025.4.1
112
たき

ふるさと多気の文人たち その一
三井丹丘（丹生）

文人とは、職業とは別に余技として詩文や書画を創作するなど、文化的、学問的な教養を身につけた人をいいます。
このシリーズ（不定期掲載）では多気町ゆかりの優れた文人たちを紹介していきます。

三幅の軸（左の写真）は三井丹丘（一七二九～一八一一）の作。

丹丘は江戸時代中後期、医術を生業として丹生に暮らした人物である。漢詩文、篆刻、和歌、狂歌、書、煎茶等幅広い分野にわたって活躍した。

とりわけ絵は池大雅の弟子、青木夙夜を師とし、伊勢大雅とも呼ばれる。

十八世紀後半、京都は絵の先進地であった。画人たちはしばしば集まっては絵を描き、互いに批評しあっていた。こうした集まりは画会とよばれ、東山に点在する料亭がよく使われた。画会には名だたる名家、池大雅や円山応挙が出席することもあった。地方画人も集まった。画会「東山ノ会」に参加した伊勢斎宮の文人森島長志が著した画論書の中に、次のエピソードが残っている。曽我蕭白が人物画を途中まで描いたところ、しばし沈思黙考した後、突然、手ぬぐいをとってそれに墨をたっぷりつけて腰から下の残り部分を描き切った。その一部始終を丹丘が目のあたりにし、後に長志に語ったという。丹丘は丹生から京都に上がり、最先端の絵画を求め、画人たちの画会に参加していたのである。

墨竹（個人蔵）

墨竹図（個人蔵）

山水図 （個人蔵）

多気郷土資料館企画展
くらしの形と心 vol. 1
～ 調理する ～

令和7年
5月9日(金)～6月22日(日)
9時～16時　入館無料
月曜・祝日休館

当館には多気町及びその周辺地域の方々からご寄贈いただいた膨大な量の農具、生活道具類が収蔵されています。概括的なテーマの企画展では、そのうちの一部しか展示できず、これまで公開の機会に恵まれなかった資料が数多くあります。

今回より、民具を中心に収蔵品を紹介する企画展を「くらしの形と心」というタイトルでシリーズ化し、年に一回開催します。

焙烙皿

第一回のサブタイトルは「調理する」です。食物の調理に使われた道具をはじめ、昔の料理レシピや献立が掲載された文書や書籍等も展示します。

左上の写真は、豆等を煎(炒)るのに用いた焙烙皿です。焙じる、煎る、焙るなど、食品を火にかけ水分をとばし、カラッと乾燥させる調理法を表す言葉も色々あります。手間暇をかけて、滋味豊かな香ばしさを引き出しました。

道具や文書など、目に見える形から、先人たちがどのようにくらしてきたのかを探り、それらを生み出し、また利用してきた人々の心に迫ることができればと思います。

ミニ展示　同時開催
埋もれていたモノたち
森荘川浦遺跡　①

森荘川浦遺跡(旧称森荘遺跡)は、多気町森荘字川浦にあります。県内の縄文遺跡のなかでは、戦後早い時期に多量の石鏃や剥片の散布地として知られていました、平成6年6月から9月に行われた発掘調査で出土した遺物の一部を紹介いたします。

森荘川浦遺跡出土遺物

土偶片。長辺7.4㎝、短辺3.6㎝、厚み2.8～3.3㎝ほどの大きさで、胴体1/2の左半身の部分。朱が一部付着している。

多気郷土資料館休館のお知らせ

休館期間：令和7年3月17日(月)～5月8日(木)

※ 次回企画展の準備期間を含みます。

収蔵庫の燻蒸に使用されていたブンガノンガスの製造・販売終了のため、今年度から当館でIPM(総合的有害生物管理)が導入されることになりました。IPMは、化学的な薬剤だけに頼らず、日ごろから虫やカビが発生しにくい環境を作っていこうとする取り組みです。これにともなって、勢和郷土資料館の収蔵室に保管されている文書類を多気郷土資料館へ移動、紙資料を一括管理することにより、虫やカビの被害をいち早く発見できる体制を整えます。この作業のため、上記の期間は休館いたします。

地元で使われ、大切にされてきた貴重な資料を今後も可能なかぎり良好な状態で保存できるように努めます。

休館中も職員在館時(月曜・土日・祝日を除く)には問い合わせ等に対応しますが、不在の場合もありますので、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

「ちょっとひとこと」欄へのご投稿をお待ちしています。郷土資料館についてのご意見、郷土の歴史に関すること、昔の暮らしの思い出などなんでも結構です。400字詰め原稿用紙1枚程度でお願いします。

悠たき
令和7年4月1日 発行　多気町教育委員会　℡0598-38-1122
(多気郷土資料館　℡0598-38-1132)
〒519-2181　三重県多気郡多気町相可1587-1